

# 第2章 相対参照と絶対参照

## STEP 1. 相対参照

### 1. 練習用のシートを用意しましょう

1 エクセルを起動し、シートのフォントサイズを「14」にします。

2 図のように入力します。

相対参照  
絶対参照  
複合参照

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	1	2	3	4						
2	2									
3	3									
4	4									
5										
6	相対参照									
7										
8										
9										
10										
11	絶対参照									
12										
13										
14										
15										
16	複合参照									
17										

### 2. セル「C6」にセル「A1」を参照する式を入力しよう

1 セル「C6」に“半角”で「=」を入力します。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	1	2	3	4						
2	2									
3	3									
4	4									
5										
6	相対参照		=							
7										
8										
9										
10										
11	絶対参照									
12										

2 セル「A1」をクリックします。

FALSE    X ✓ f    =A1

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	1	2	3	4						
2	2									
3	3									
4	4									
5										
6	相対参照		=A1							
7										
8										
9										
10										
11	絶対参照									

セル「C6」の内容が「=A1」になりました。

3 ✓ をクリックします。

FALSE    X ✓ f    =A1

	A	B	C	D	E	F	G
1	1	2	3	4			
2	2						
3	3						
4	4						
5							
6	相対参照		=A1				
7							
8							
9							
10							
11	絶対参照						

「Enter」キーを押してもかまいません。

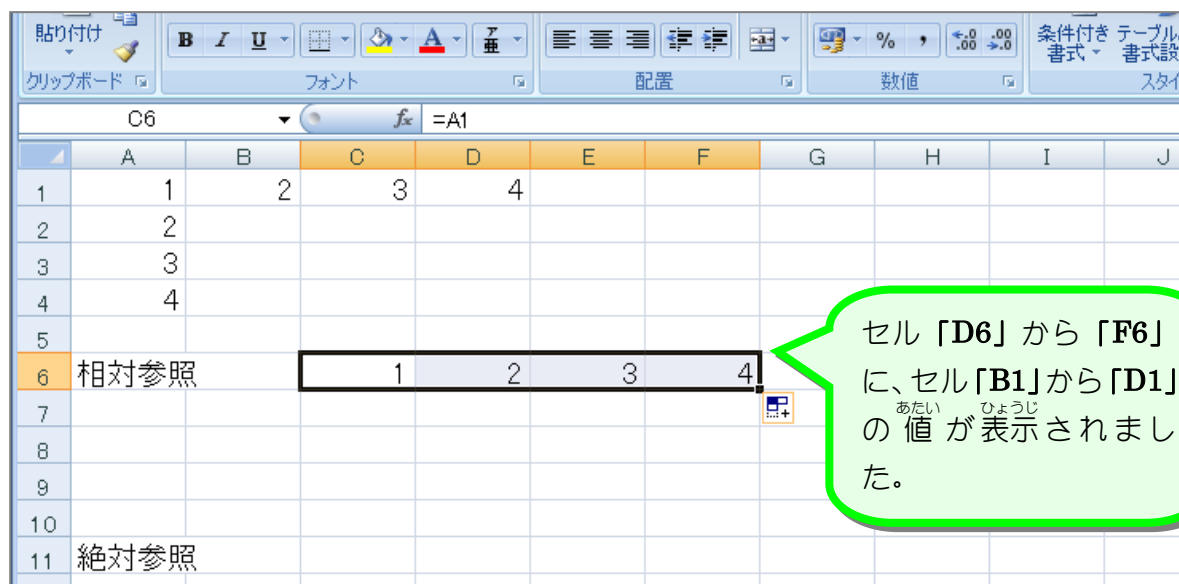
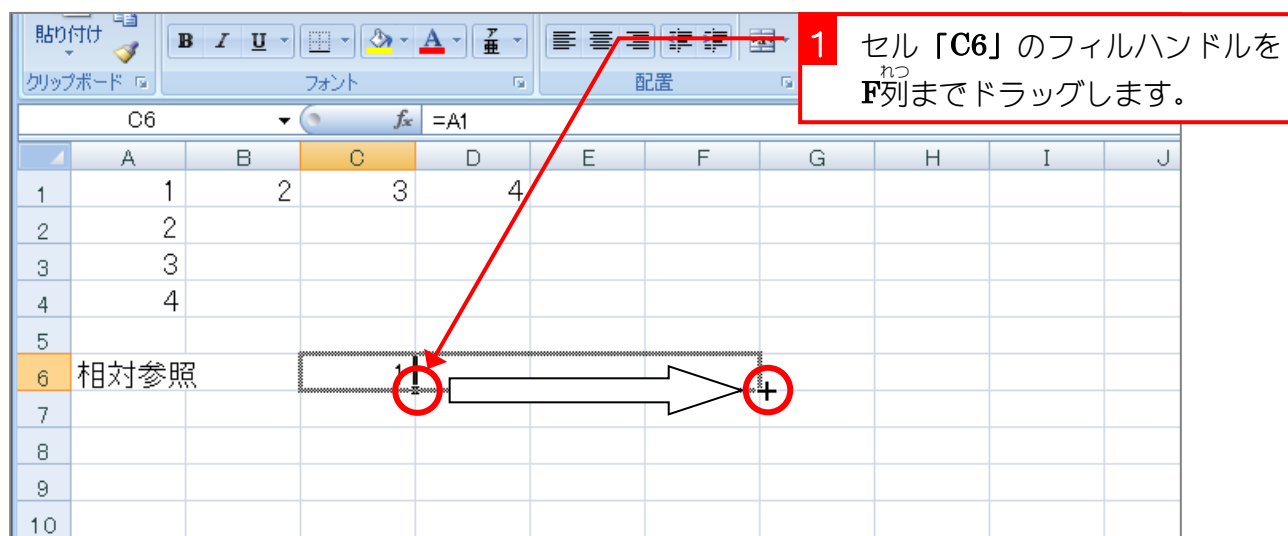
O6    f    =A1

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	1	2	3	4						
2	2									
3	3									
4	4									
5										
6	相対参照		1							
7										
8										
9										
10										
11	絶対参照									

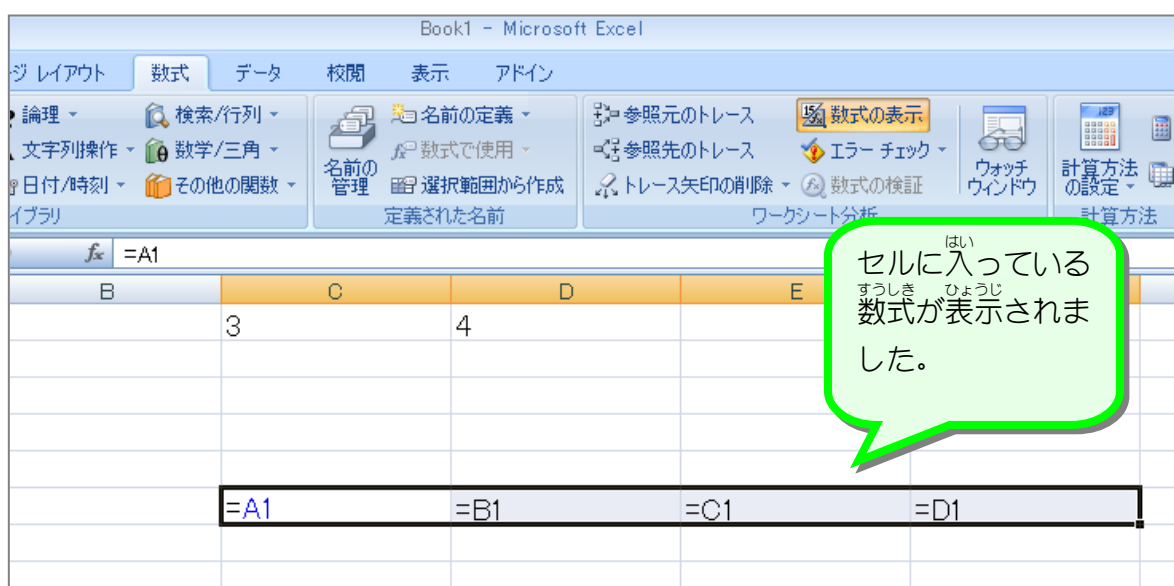
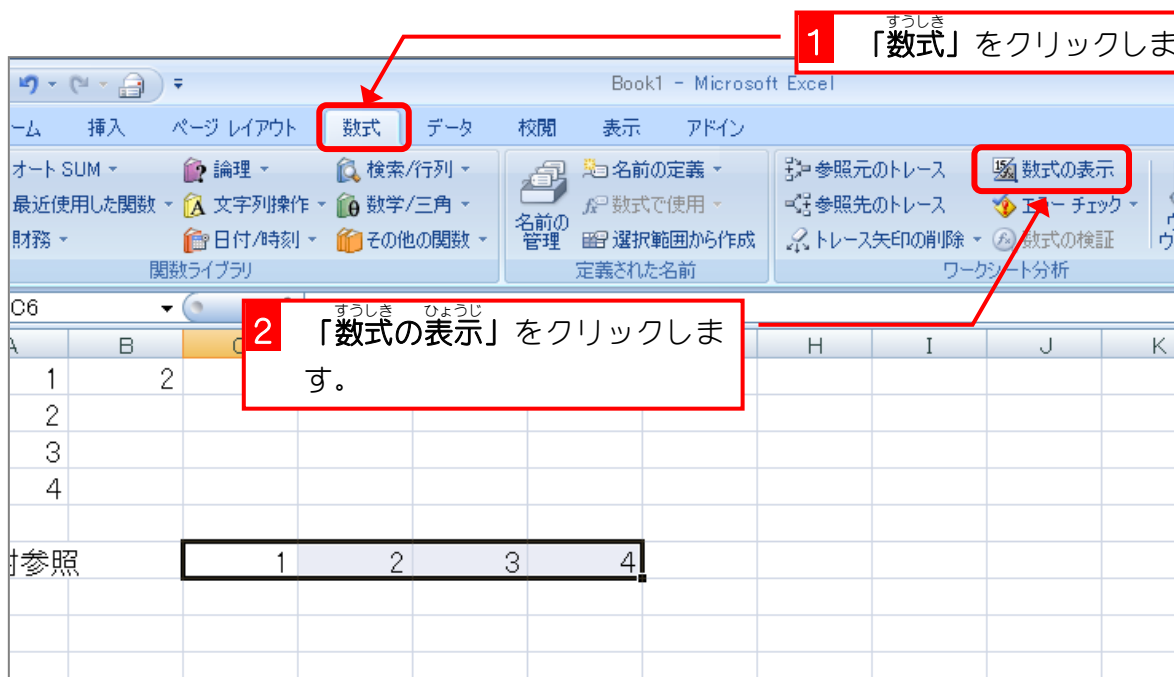
セル「C6」の表示が「1」になりました。

セル「C6」に「=A1」という式を入力したので、セル「A1」に入っている「1」が表示されました。

### 3. セル「C6」をF列<sup>れつ</sup>までコピーしましょう



## 4. セルの数式を表示しましょう



### 解説 相対参照

セルの内容をコピーした時に、参照する数式がコピー先にあわせて調整される参照方法を「相対参照」と言います。

上の例では、セル「C6」に入力した式「=A1」をF列まで横方向にコピーしましたが、コピー先のそれぞれのセルには「=B1」「=C1」「=D1」と列番号が調整されてコピーされています。相対参照では横方向にコピーすると「列番号」が、縦方向にコピーすると「行番号」が調整されてコピーされます。

## 練習問題

- セル「C6」をセル「C9」までコピーして、<sup>ぎょうばんごう</sup>行番号が<sup>ちようせい</sup>調整されることを<sup>かくにん</sup>確認しましょう

	B	C	D	E	F
1	2	3	4		
2					
3					
4					
5					
6		=A1	=B1	=C1	=D1
7		=A2			
8		=A3			
9		=A4			
10					
11					

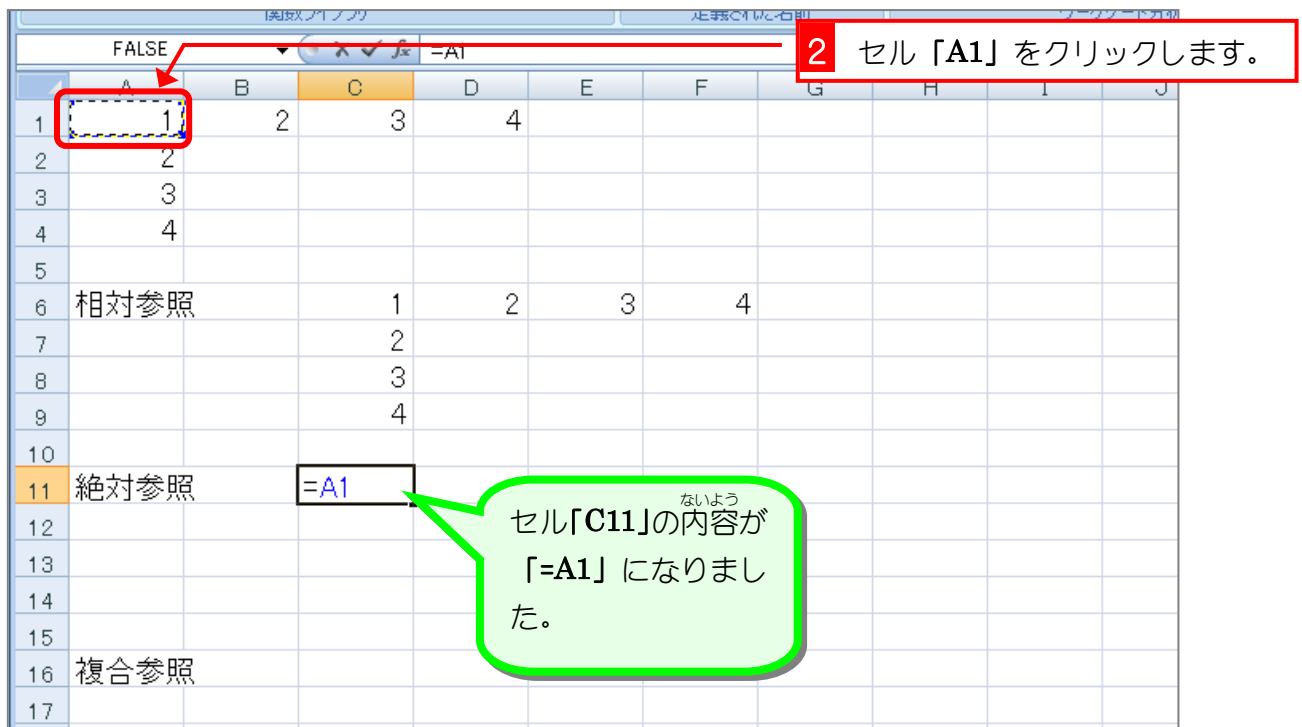
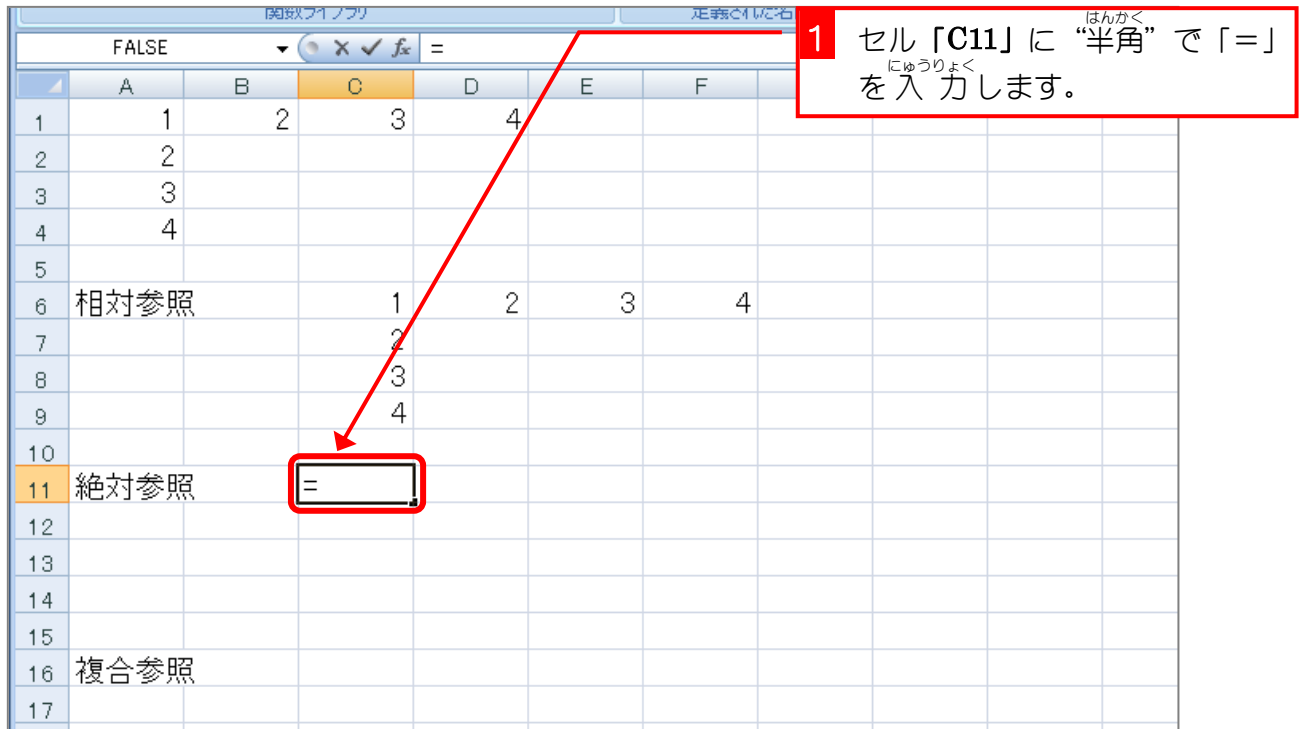
## 5. 「数式の表示」を解除しましょう

1 「数式の表示」をクリックします。

	B	C	D	E	F
A	2				
		=A1	=B1	=C1	=D1
		=A2			
		=A3			
		=A4			

## STEP 2. 絶対参照

- セル「C11」にセル「A1」を参照する式を「絶対参照」で入力しましょう



3 「F4」キーを押します。



F 4

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	1	2	3	4						
2	2									
3	3									
4	4									
5										
6	相対参照		1	2	3	4				
7			2							
8			3							
9			4							
10										
11	絶対参照		= \$A\$1							
12										
13										
14										
15										
16	複合参照									

セル「C11」の内容が「= \$A\$1」になりました。

4  をクリックします。

	A	B	C	D	E	F	G
1	1	2	3	4			
2	2						
3	3						
4	4						
5							
6	相対参照		1	2	3	4	
7			2				
8			3				
9			4				
10							
11	絶対参照		= \$A\$1				
12							
13							
14							

「Enter」キーを押してもかまいません。

関数ライブラリ		定義された名前		ワークシート分類						
C11		fx		= \$A\$1						
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	1	2	3	4						
2		2								
3		3								
4		4								
5										
6	相対参照		1	2	3	4				
7			2							
8			3							
9			4							
10										
11	絶対参照		1							
12										
13										

セル「C11」の表示が「1」になりました。

セル「C11」に「= \$A\$1」という式を入力したので、セル「A1」の「1」が表示されました。

## 2. セル「C11」を F列までコピーしましょう

関数ライブラリ		定義された名前		ワークシート分類						
C11		fx		= \$A\$1						
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
5										
6	相対参照		1	2	3	4				
7			2							
8			3							
9			4							
10										
11	絶対参照		1							
12										
13										
14										
15										
16	複合参照									

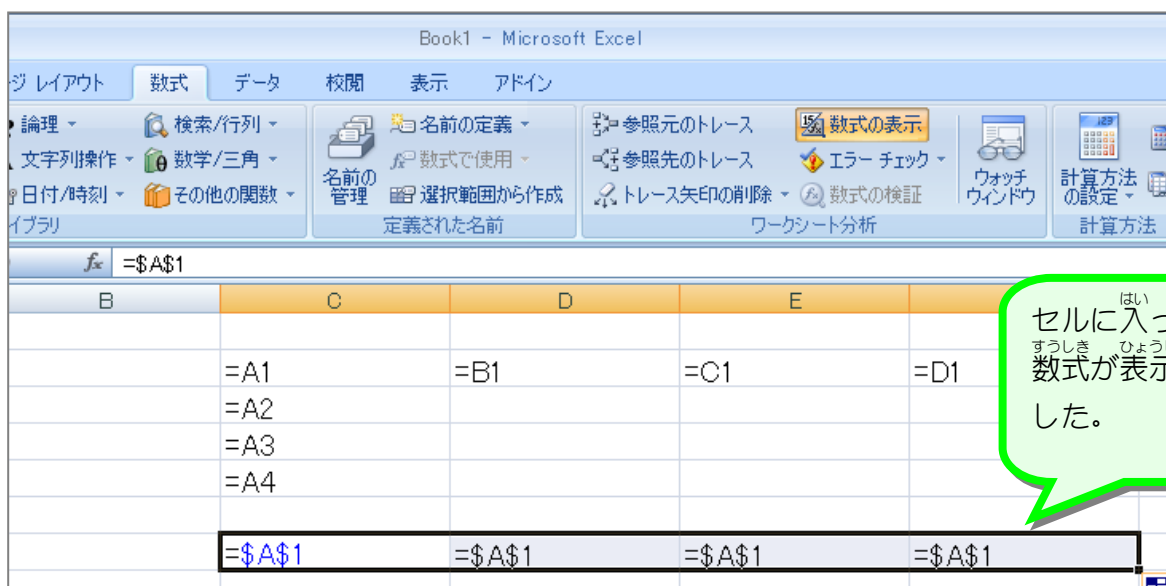
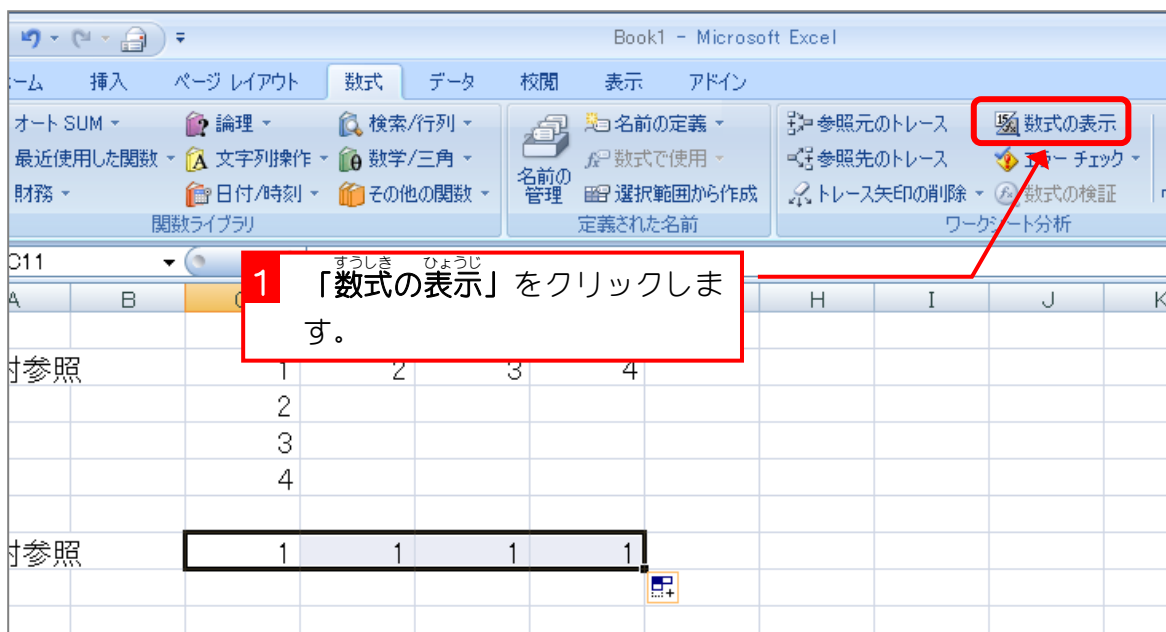
1 セル「C11」のフィルハンドルを F列までドラッグします。

関数ライブラリ		定義された名前		ワークシート分類						
C11		fx		= \$A\$1						
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
5										
6	相対参照		1	2	3	4				
7			2							
8			3							
9			4							
10										
11	絶対参照		1	1	1	1				
12										
13										
14										
15										
16	複合参照									
17										

セル「D11」から「F11」に、セル「A1」の値が表示されました。



### 3. セルの数式を表示しましょう



#### 解説 絶対参照

セルの内容をコピーした時に、参照する数式がコピー先にあわせて調整されない参照方法を「絶対参照」と言います。

上の例では、セル「C11」に入力した数式「 $=A\$1$ 」をF列まで横方向にコピーしましたが、コピー先のそれぞれのセルには、「 $=A\$1$ 」とすべて同じ数式がコピーされています。

列番号、行番号に「\$」を付けることで「絶対参照」となり、コピーしてもその参照は変わらないことはありません。

## 練習問題

- セル「C11」をセル「C14」までコピーして、<sup>ぎょうばんごう</sup>行番号が<sup>か</sup>変わらないことを<sup>かくにん</sup>確認しましょう

	B	C	D	E	F
5					
6		=A1	=B1	=C1	=D1
7		=A2			
8		=A3			
9		=A4			
10					
11		=A\$1	=A\$1	=A\$1	=A\$1
12		=A\$1			
13		=A\$1			
14		=A\$1			
15					

## 4. 「数式の表示」を解除しましょう

Book1 - Microsoft Excel

挿入 ページレイアウト 数式 データ 校閲 表示 アドイン

SUM 論理 検索/行列 名前前の定義 参照元のトレース 数式の表示  
 使用した関数 文字列操作 数学/三角 数式で使用 参照先のトレース エラーチェック  
 日付/時刻 その他の関数 選択範囲から作成 トレース矢印の削除 数式の検証 ウォッチ  
 関数ライブラリ 定義された名前 ワークシート分析

1 「数式の表示」をクリックします。

A	B	C	D	E	F
照		=A1	=B1	=C1	=D1
		=A2			
		=A3			
		=A4			
照		=A\$1	=A\$1	=A\$1	=A\$1
		=A\$1			
		=A\$1			
		=A\$1			
照					

## STEP 3. 複合参照

- セル「C16」にセル「A1」を参照する式を「複合参照」で入力しましょう

1 セル「C16」に“半角”で「=」を入力します。

	A	B	C	D	E	F
1	1	2	3	4		
2	2					
3	3					
4	4					
5						
6	相対参照		1	2	3	4
7			2			
8			3			
9			4			
10						
11	絶対参照		1	1	1	1
12			1			
13			1			
14			1			
15						
16	複合参照		=			
17						
18						

2 セル「A1」をクリックします。

セル「C16」の内容が「=A1」になりました。

	A	B	C	D	E	F
1	1	2	3	4		
2	2					
3	3					
4	4					
5						
6	相対参照		1	2	3	4
7			2			
8			3			
9			4			
10						
11	絶対参照		1	1	1	1
12			1			
13			1			
14			1			
15						
16	複合参照		=A1			
17						
18						